

藤原家を襲った菅原道真



■ 日吉神社519.154km - 平安京大極殿 - 大朝日岳 519.154km

左極

日吉神社

最澄は、延暦二十四（八〇五）年、唐から帰朝の折に筑紫で最初の天台派寺院たる背振山東門寺を開基。これを比叡山延暦寺に移した時に、その守護神としてここの山王神猿田彦命を勧請して滋賀県に日枝神社（日吉大社）を創建したと言う伝説が残っている。

<http://blogs.yahoo.co.jp/hsnm3373/35645348.html>

福岡県筑紫郡那珂川町

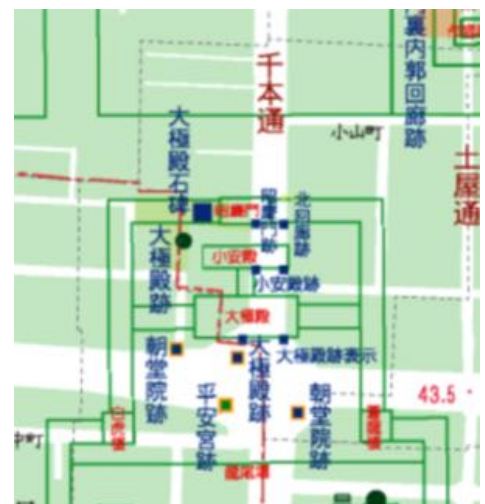


中道角

平安京大極殿

桓武天皇は延暦3年（784年）に平城京から長岡京を造営して遷都したが、これは天武天皇系の政権を支えてきた貴族や寺院の勢力が集まる大和国から脱して、新たな天智天皇系の都を造る意図があったといわれる。しかしそれから僅か9年後の延暦12年（793年）の1月、和気清麻呂の建議もあり、桓武天皇は再遷都を宣言する。場所は、長岡京の北東10km、二つの川に挟まれた山背国北部の葛野郡および愛宕郡の地であった。事前に桓武天皇は現在の京都市東山区にある將軍塚から見渡し、都に相応しいか否か確かめたと云われている。日本紀略には「葛野の地は山や川が麗しく四方の国の人が集まるのに交通や水運の便が良いところだ」という桓武天皇の勅語が残っている。

「大極殿」の名は、万物の根源、天空の中心を意味する「太極」に由来する。すなわち、帝王が世界を支配する中心こそ



「大極殿」の意である。

右極

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初顕神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

（備考）

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

備考

前項でも紹介したが、平安京は日枝神社（滋賀）のルーツ神を祀る日吉神社（福岡那珂川町）と、古代蝦夷の大聖地だった大朝日岳や大沼浮島（山形県朝日町）に守られていた。この平安京を護るしくみをベースに使い、出雲系菅原一族は道真死去後に、平安京に雷を落として復讐したのだろう。



日吉神社



本殿裏の楠の御神木と心和む川原



夫婦ヤマモモ



エネルギーや波動を感じられる友人と訪ねる機会があったが、本殿よりも、裏にある神木3本付近と川にかけて特に高波動なことがわかった。2020.1月

備考

日吉神社の隣の中ノ島。こういう中洲の島は、熊野本宮や諏訪大社浮島社のように磐座信仰時代の聖地。ここにもきっと浮島神としての弁財天や龍神などの瀬織津姫系の神様がいらしたはず。隣の日吉の太陽系の神と陰陽の関係で祀られていたのではないだろうか。古代の神様は太陽神と大地神のペアで祀られることが多かった。ここから大極殿に線を伸ばしてみた。



中ノ島公園

自然にできた中洲をそのまま活かした公園。福岡県那珂川市



■中ノ島公園 - 天拝山- 平安京大極殿

天拝山

大宰府に流刑された菅原道真が自らの無実を訴えるべく幾度も登頂し天を拝した。福岡県筑紫野市武蔵

備考

なんと、中ノ島公園と大極殿の間には、天拝山頂上があった。ここは菅原一族にとっての祭祀場だったことは確実。ここから平安京への復讐を図ったといえる。ただ、雷が落ちて火事になったのは清涼殿だったことを思い出し、今度は清涼殿を中心にあれこれコンパスを回してみた。すると、

■天拝山荒穂神社 511.30km - 清涼殿 - 祝瓶山 511.30km



天拝山荒穂神社

祭神 五十猛命 福岡県の説明板『筑前続風土記』には、荒穂神社は、現在佐賀県三養基郡基山町宮浦にある荒穂補明神を招いたもので、一説にはニニギノミコトを祭神とするが、本来は五十猛命であるとされている。また宮浦荒穂明神が一夜のうちに馬上空を飛んで、この岩間に鎮座したともいわれている。筑紫野市の説明板『筑前続風土記』には昔、宮浦の荒穂明神は城山（基山）の上に坐り、基肆城をとりまく山々に五十猛命が祀られたことがわかる。

社殿の上部に磐座が見える。何故、中腹以上で頂上でもない所に神社があるのが不思議であるが、かっこうの磐座があるので、ここが神祭の場となったのであろう。

<http://kamnavi.jp/it/tukusi/tenpai.htm>



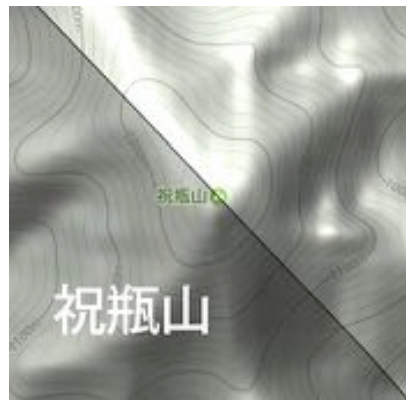
内裏 清涼殿

平安時代初期、天皇の日常生活の居所として仁寿殿や常寧殿が使用されていたが、中期にはこの清涼殿がもっぱら天皇の御殿とされ、紫宸殿が儀式を行う殿舎であるのに対し、日常の政務の他四方拝・叙位・除目などの行事も行われた。



祝瓶山

天武天皇(7世紀)の頃、隆盛を極めた霊山で、山頂に祈祷壇跡があるという(日本山岳誌)。役行者がこの山に登り、長井市の野川沿いに岩上寺を創建し、数十の伽藍、三百の僧坊が立ち並んだ。前九年の役で安倍貞任の郎党を匿ったとして、源義家に攻められ廃絶した。岩の多い山から岩上、それが転訛し→岩神、岩亀、祝亀、祝瓶となったようだ。この地方に落ちのびた平家の残党や流人が山に籠もり修験化し、無法を働くので鎌倉幕府は千年封じをしたので、朝日修験は衰退した。こうした流れの中で、祝瓶山の峰入りも廃れたに違いない。山形県長井市



備考

清涼殿を中心にコンパスを広げると、祝瓶山と荒穂神社でわずかにずれるため落胆したが、荒穂神社の裏に磐座があることがわかり、ピンポイント同距離になった。これで140度開きの中道型しくみは、両極に守られるだけでなく、逆にやっつける働きもあることがわかった。しくみはプラスにもマイナスにも使えるようだ。

出雲系カバラ使い菅原道眞は、右大臣として帝のために平安京を護るしくみ作りを全国に行ったが、天孫系左大臣藤原時平に陥れられ太宰府に左遷されまもなく亡くなった。おそらく暗殺されたのだろう。太宰府と出羽の菅原一族は、平安京の護りとして作っていたしくみを逆に使い呪詛した。天拝山は日吉中ノ島の龍を。祝瓶山は大朝日岳の龍を奮い起させ平安京藤原一族を襲った。

その後、天孫系一族によりこの危ないしくみは、中ノ島の神を無くし、朝日嶽信仰を千年封じすることにより封印されたものと考えられる。

龍が横たわっているような朝日連峰。祝瓶山は大朝日岳の大ピラミッドに対して小ピラミッド磐座山的祭祀場なのだと思う。ピラミダルの山容が似ているために、大きさは違いますが大朝日岳と間違える人が多いらしい。朝日連峰は国立公園。大沼浮島は国の名勝。どちらも未だ現代の天領となっている。

ちなみに、菅原一族もカバラ使いだったとされる。誰かのサイトで見たが、菅原=カンバラ=カバラなのだそう。道真怨霊が落としていた雷が菅原家所領の桑原には落ちなかったので呪文になった「くわばら、くわばら」は「かばら、かばら」。本当の桑原ではなくカバラ(しくみ)で護られた神社仏閣には落ちなかったということだろう。

(参考)

■大神宮神社(壱岐) 547.92km - 生身天満宮(京都) - 大沼浮島 547.92km

國片主神社

無格社。壱岐國神社誌によると創立年月日の他不詳。小さいながらも立派な鳥居と石灯籠がある。祭神/天照大神

生身天満宮

園部の地は菅原氏の知行所であり、小麦山に菅原道眞の邸宅があったと伝えられている。

延喜元年（901年）に道真が大宰府に流された時、園部の代官・武部源蔵は道真の8男・慶能の養育を頼まれた。そして小麦山にあった邸内に小祠を作り、密かに道真の像を安置して生祠として奉斎したのが始まりとする。延喜3年（903年）に大宰府で道真が亡くなると生祠を霊廟に改め、天曆9年（956年）、改めて神社として祭祀を行った。京都府南丹市園部町

備考（2020.1月追記）

気になっていた中ノ島公園。福岡に行った折に、波動を感じられる友人と足を踏み入れる機会があった。なにか聖域だった証が残っていないか期待した。しかし、隣の日吉神社と違って明るい公園に整備されていて少々落胆した。右側から探そうと思い歩き始めると、友人が「こっちに行こう」と中程に。すると地面に無数の根を放射状に広げている木があった。よく見ると太い幹が7本。御神木と呼ぶに十分な迫力を感じた。友人は「ビリビリくるよ」と。そして、ここから川原に向けて特に感じるという。樹齢はおそらく100年ほどと思うが、大地の波動が噴き出しているのもこのように迫力ある木に育ったらしい。ここが聖域として崇められていた時代の中心だったのかもしれない。

川上に一本気になる木があったので行ってみると、太い枝を何本ものたくましい腕のように伸ばしていた古い楠があった。まるでデイダラボッチ。友人はここも感じるという。高波動だと異形な育ちになってしまうのだそうだ。



その木のさらに川上に一段高い丘になっているところを見つけた。きっと昔はここに社があったのだろう。丘の上の傍に神池の存在を残すかのような曲線のコンクリート枠が残っていた。埋めて花壇にしたのだろうか。ぼーっと見ていたら浮島社の社殿と池と鎮守の森の姿が想像できた。



公園入口で販売していた竹炭焙煎コーヒーが美味しかった。また行く機会があったら、村史とかを見て、菅原道眞の歴史がないか調べてみたい。

家に戻り、さっそく写真地図で見ると7本幹の御神木が確認できた。適当に置いていた中ノ島→天拝山→大極殿清ラインの突端をそこに移動してみた。そして、天拝山の位置を確認してみた。以前にはなかった天拝山社のマーカーが表されていた。地図をさらにUPして驚いた。その天神山社のマーカーの真上にラインが乗っかっていた。

